

史跡斎宮跡

平成29年度現状変更緊急発掘調査報告

平成31（2019）年3月

明 和 町

序

史跡斎宮跡では、飛鳥時代に成立したとされる「初期斎宮」を解明するための発掘調査が、斎宮歴史博物館により竹川で継続的に行われており、徐々にではありますが、その姿が明らかになりつつあります。「初期斎宮」の解明は、伊勢神宮の成立を探る上でも、古代史上の重要な論点となっています。昨年11月には、竹川での発掘調査で大型の建物跡が確認され、今後の発掘調査にも期待が寄せられています。

明和町は昨年、明和町政施行60周年を迎え、記念式典や催しが斎宮跡や町内各地で行われ、大きな節目の年になりました。それに続いて、本年3月には史跡斎宮跡が指定40周年を迎えます。昭和54年3月に指定されて以来、三重県による継続的な発掘調査が続けられ、それに伴う史跡整備が進められてきました。町でも、平成24年6月に認定された「明和町歴史的風致維持向上計画」に基づき、史跡斎宮跡の周辺環境整備を進めています。来訪していただいた方に気持ちよく歴史を体感していただき、更なる史跡の活用と町の活性化につなげていかなければならないと考えています。

さて、本報告書は史跡地内で個人住宅等の建設などに伴い、発掘調査が必要であった12件の結果についてまとめたものです。発掘調査にご理解とご協力いただきました地元地権者の皆さま、また、発掘調査から報告書作成に至るまでご指導、ご協力いただきました斎宮歴史博物館調査研究課の方々に厚くお礼申し上げます。

平成31（2019）年3月

三重県多気郡明和町

町長 世古口 哲哉

例 言

- 本書は、平成29（2017）年度に明和町が実施した史跡斎宮跡（三重県多気郡明和町斎宮・竹川地区）の現状変更緊急発掘調査の結果をまとめたものである。
- 本書に掲載した調査のうち、第191-1・3・5・8・10・12次調査は事業者が費用負担したが、それ以外については、国庫および県費の補助金を受けて実施したものである。
- 調査は明和町が主体となり、斎宮歴史博物館および明和町斎宮跡・文化観光課が現地調査を担当した。
- 調査区名の表示方法（例：6AL13）については、『史跡斎宮跡平成13年度発掘調査概報』（斎宮歴史博物館 2003）による。
- 遺構の平面図は、過年度との整合をはかるため、「測地成果2000」以前の旧国土座標第VI系に相当する座標系を用いて表示している。
- 遺構の時期区分については、『斎宮跡発掘調査報告Ⅱ』（2014）を基準とした。
- 遺構名冒頭の略記号は、遺構の形態から以下のように表記している。
S D : 溝 S H : 竪穴建物 S K : 土坑 S N : 畦畔 S Z : 落ち込み等
- 図面・写真等の調査資料類および出土遺物は、斎宮歴史博物館で一括保管している。
- 本書の執筆は、川部浩司・宮原佑治（斎宮歴史博物館）が前言・調査報告を、乾哲也（明和町斎宮跡・文化観光課）が付編の執筆を行い、編集は山中由紀子（斎宮歴史博物館）・乾が担当した。なお、執筆分担は目次に記した。

目 次

I 前言	（宮原）	1	6 第191-6次調査	（宮原）	8
II 調査報告			7 第191-7次調査	（宮原）	9
1 第191-1次調査	（川部）	3	8 第191-8次調査	（宮原）	11
2 第191-2次調査	（宮原）	5	9 第191-9次調査	（宮原）	12
3 第191-3次調査	（宮原）	5	10 第191-10次調査	（宮原）	13
4 第191-4次調査	（宮原）	7	11 第191-11次調査	（宮原）	15
5 第191-5次調査	（宮原）	7	12 第191-12次調査	（川部）	16
			付編 史跡現状変更等許可申請	（乾）	22

表・挿図目次

第1表 史跡現状変更等許可申請の推移	第4表 第191次調査 出土遺物一覧表（2）
第2表 第191次調査 遺構一覧表	第5表 第191次調査 出土遺物一覧表（3）
第3表 第191次調査 出土遺物一覧表（1）	第6表 平成29年度現状変更等許可申請一覧
第1図 発掘調査位置図	第4図 第191-1次調査 調査区3・4配置図・土層柱状図
第2図 第191-1次調査区位置図	第5図 第191-1次調査 遺物実測図
第3図 第191-1次調査 調査区1・2 遺構平面図・土層図	第6図 第191-2次調査区位置図

- 第7図 第191-2次調査 遺構平面図・土層図
 第8図 第191-3次調査区位置図
 第9図 第191-3次調査 遺構平面図・土層図
 第10図 第191-3次調査 遺物実測図
 第11図 第191-4次調査区位置図
 第12図 第191-4次調査 遺構平面図・土層図
 第13図 第191-4次調査 遺物実測図
 第14図 第191-5次調査区位置図
 第15図 第191-5次調査 遺構平面図・土層図
 第16図 第191-5次調査 遺物実測図
 第17図 第191-6次調査区位置図
 第18図 第191-6次調査 遺構平面図・土層図
 第19図 第191-7次調査区位置図
 第20図 第191-7次調査 遺構平面図・土層図
 第21図 第191-7次調査 遺物実測図

- 第22図 第191-8次調査区位置図
 第23図 第191-8次調査 遺構平面図・土層図
 第24図 第191-9次調査区位置図
 第25図 第191-9次調査 遺構平面図・土層図
 第26図 第191-9次調査 遺物実測図
 第27図 第191-10次調査区位置図
 第28図 第191-10次調査 遺構平面図・土層図
 第29図 第191-10次調査 遺物実測図
 第30図 第191-11次調査区位置図
 第31図 第191-11次調査 遺構平面図・土層図
 第32図 第191-11次調査 遺物実測図
 第33図 第191-12次調査区位置図
 第34図 第191-12次調査 遺構平面図・土層図
 第35図 第191-12次調査 遺物実測図

写真図版

- 写真図版1 第191-1次調査区1全景（南西から）
 写真図版2 第191-1次調査区1〔拡張区〕
 SN11036検出状況（南東から）
 写真図版3 第191-1次調査区2全景（南から）
 写真図版4 第191-1次調査区3全景（東から）
 写真図版5 第191-1次調査区3全景（西から）
 写真図版6 第191-1次調査区4全景（東から）
 写真図版7 第191-2次調査区全景（北から）
 写真図版8 第191-3次調査区2全景（北から）
 写真図版9 第191-3次調査区3全景（東から）
 写真図版10 第191-3次調査区7全景（南から）
 写真図版11 第191-4次調査区全景（西から）
 写真図版12 第191-6次調査区全景（北から）
 写真図版13 第191-5次調査区全景（西から）
 写真図版14 第191-5次調査区東（南から）

- 写真図版15 第191-7次調査区1全景（東から）
 写真図版16 第191-7次調査区2全景（北から）
 写真図版17 第191-8次調査区全景（北東から）
 写真図版18 第191-8次調査断ち割り土層（北西から）
 写真図版19 第191-9次調査区2全景（南から）
 写真図版20 第191-9次調査区2・3全景（北から）
 写真図版21 第191-10次調査区全景（東から）
 写真図版22 第191-10次調査区2全景（南東から）
 写真図版23 第191-10次調査区3拡張部（北東から）
 写真図版24 第191-11次調査区全景（北から）
 写真図版25 第191-11次調査SDG700断面（北から）
 写真図版26 第191-12次調査区1土層（南東から）
 写真図版27 第191-12次調査区2土層（北から）
 写真図版28 第191-12次調査区3土層（北西から）

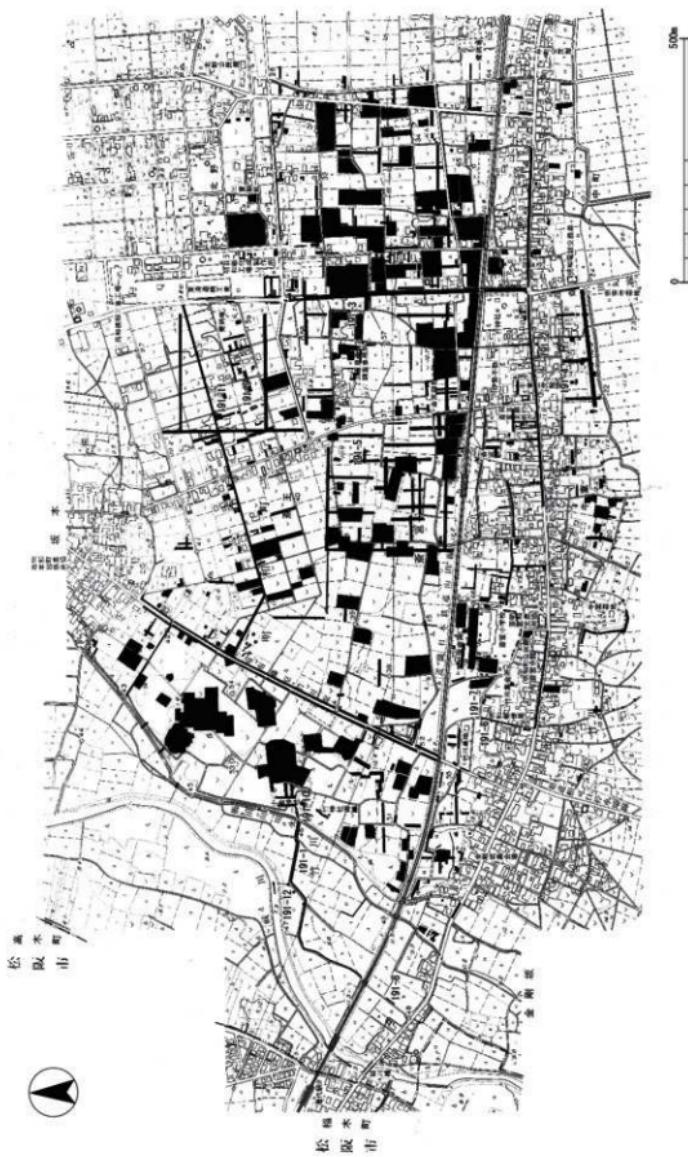
I 前 言

平成29年度には37件の現状変更等許可申請が提出された。史跡指定後、年間約40～50件程度で推移してきており、平成29年度はやや減少傾向であった。現状変更の内訳をみると、個人住宅の新築やそれに伴う盛土など、史跡内住民の生活維持のための現状変更に加え、明和町による史跡整備（いつきのみや地域交流センター付帯工事・園路整備）などの歴史的風致維持向上計画（以下、歴まち整備事業）に伴う事前の発掘調査等があった。このうち、発掘調査が必要となった案件は12件で、調査面積の合計は664.8m²である。

第191-2・4・6・7・9・11次は個人住宅の新築あるいはそれに伴う盛土で、建物の基礎工事や浄化槽の埋設などに伴って調査を行なった。一方、第191-1・3・5・8・10・12次は歴まち整備事業に関連し、第191-1・8・10・12次は戸散策路整備、第191-3・5次は園路整備等に伴う調査であった。中でも、第191-1・5次調査は100m²をこえる比較的まとまった面積での調査となった。これらの調査は、いずれも遺構密度や遺構面の深さの確認など史跡保護に係るデータの蓄積はもとより、斎宮跡の実態解明にとって貴重な成果となった。

年 度	現状変更申請数	発掘調査件数	調査面積 (m ²)	うち補助金調査件数	同調査面積 (m ²)
昭和 54	33	17	3,968	12	996
55	60	12	1,281	10	815
56	53	12	5,416	10	696
57	50	8	657	7	577
58	52	16	3,757	10	1,440
59	30	15	2,884	12	1,589
60	39	8	1,260	5	1,014
61	54	12	1,845	9	1,507
62	57	16	2,854	13	1,620
63	46	17	8,820	7	1,131
平成 元	57	16	7,091	9	1,061
2	58	8	1,397	5	914
3	46	3	1,550	1	1,190
4	41	6	895	5	825
5	48	8	1,670	6	1,090
6	35	6	1,360	4	1,032
7	39	2	587	1	480
8	47	6	709	4	613
9	39	6	832	2	452
10	28	4	882	2	396
11	37	8	816	3	186
12	42	10	512	8	469
13	38	14	439	5	409
14	39	22	760	4	304
15	44	19	1,558	8	1,124
16	43	24	2,372	7	762
17	31	14	3,002	8	338
18	31	13	2,171	8	335
19	50	12	374	11	270
20	41	6	237	5	150
21	56	5	790	3	45
22	65	13	448.2	13	448.2
23	43	13	1,070.7	10	223.8
24	35	8	1,899.2	6	91
25	44	17	640.7	12	370
26	41	16	868	9	555.8
27	58	15	352.5	8	198
28	53	17	751.9	8	532.9
29	37	12	664.8	6	214.9
計	1,740	456	69,442.0	276	26,464.7

第1表 史跡現状変更等許可申請の推移



第1図 発掘調査地位置図 (1 : 10,000)

II 調査報告

1 第191-1次調査 (6AE・F・G8)

調査場所 多気郡明和町大字竹川字戸・花園地内

原 因 散策路整備

調査期間 平成29年6月29日～9月8日

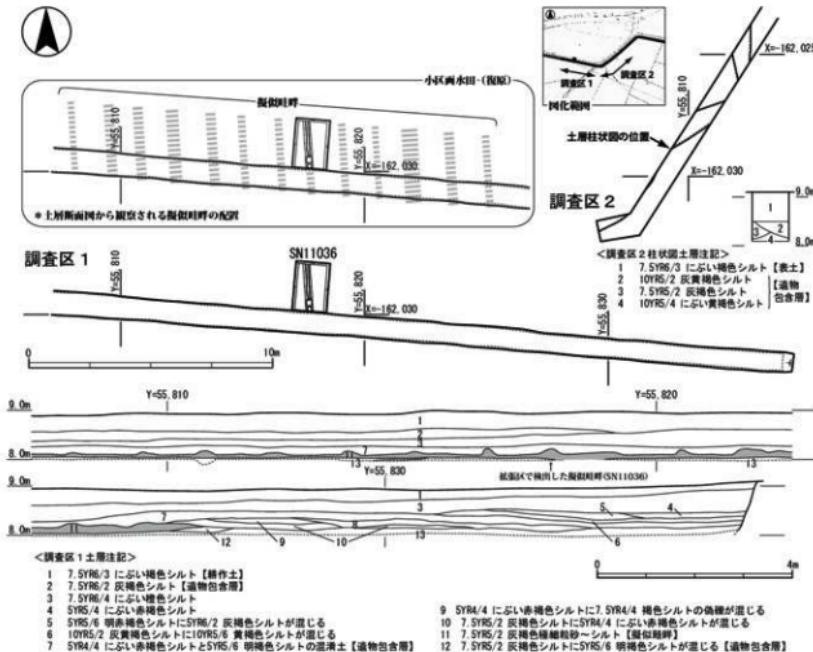
調査面積 186.1m²

調査概要 明和町の歴まち整備事業の一環である。散策路整備に伴い立会を行ったところ、遺物出土や水田畦畔の確認により、発掘調査に変更した地点である。調査地は史跡西部に位置する畠地及び町道（赤道）となる。畠地と町道間への畦畔ブロックの設置に際し、幅約0.9m、深さ約1mで総延長約210mを掘削して調査区とした。調査区は便宜的に4区に分けている。

耕作土層より下層は遺物包含層及び砂礫層となるが、遺構面の認識は困難であるため地層の観察と記録を調査の主体とした。いずれの調査区も地表面から深さ約0.3～0.4mで遺物包含層に達し、同層は明褐色系シルトの累重によって約0.6mの厚みをもつ。調査区4では、遺物包含層の下部に疊～細



第2図 第191-1次調査区位置図 (1:5000)



第3図 第191-1次調査 調査区1・2遺構平面図 (1:200)・土層図 (1:100)

粒砂で構成される砂礫層があり、埋没流路帯や破堤堆積物もしくは自然堤防による地層とみられる。遺物包含層と砂礫層は調査区ごとに地層の細部が異なるが、全体的な地層観察から微起伏を介在しながらも東方の段丘面から西方の戸川へ向けて下降する地形環境である。調査区1・2付近は南北に派生する自然堤防と推定される。

調査区1で検出した擬似畦畔SN11036は、自然堤防の西側傾斜面を利用し、第3図第11層を加工することで南北方向に設置される。擬似畦畔は東西方向に約1.5m間隔で配置して小区画水田を構築するが、田面の作土層は確認できない。地層を頼りに拡張区を設定して擬似畦畔を平面検出したところ、水口をもつ畦畔を確認した。水田層の帰属時期は、第11層を被覆する第7層と下部の第13層出土遺物から、鎌倉時代頃と想定される。

調査区2では、傾斜堆積する遺物包含層を検出した。後述する第191-12次調査成果を加味すると、盛土造成された地層と推測される。伊勢道に関係する路盤かもしれない。鎌倉時代頃に帰属する。古代伊勢道が遺存していると仮定すれば、本調査区の最深部より下層で確認できるものと推定される。

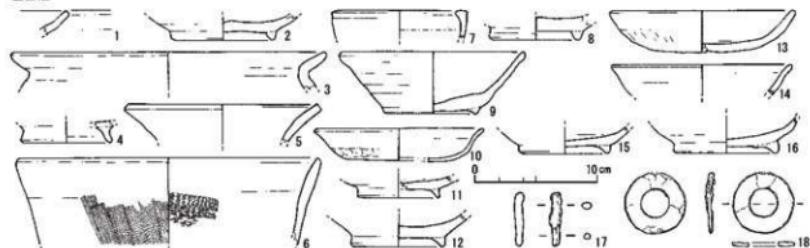
調査区3では、第4図第10層がB地点付近で最深位置となることから、流路の下刻が由来となる窪地の存在が予想され、第10層は窪地の埋積層と推測される。

出土遺物の大半は遺物包含層からの出土である。施釉陶器皿(1)、灰釉陶器椀(11・15)、青磁香炉(7)、土師器杯(10)、山茶椀(9・16)、鉄製品(17・18)、綠釉陶器片などが出土した。



第4図 第191-1次調査 調査区3・4配置図(1:1000)・土層柱状図(1:40)

包含層



第5図 第191-1次調査 遺物実測図(1:4)

2 第191-2次調査 (6AQ13)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字牛葉331番

原 因 建物建築

調査期間 平成29年4月26日

調査面積 3.4m²

調査概要 建物の建築時の浄化槽埋設に伴い事前に実施した発掘調査で、調査地は史跡南東部に位置する住宅地である。調査区は、平面が長さ2.5m、幅1.36mの長方形で、地表から深さ約1.15mで地山面を検出した。ただし、調査区内は全面に搅乱を受けているため、本来の地山面はこれよりも浅かったと考えられる。遺構、遺物は確認できなかった。

3 第191-3次調査 (6AR8・Q・R9)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字下園地内

原 因 史跡整備

調査期間 平成29年6月20日～7月4日

調査面積 14.0m²

調査概要 明和町の歴まち整備事業の一環である、いつきのみや地域交流センター付帯工事（照明灯設置）に際して立会を行ったところ、地山を確認したため実施した発掘調査である。遺構検出は、地山面上で行った。調査地は史跡東部に位置する。調査区は11箇所で、1区～11区に分け報告する。

調査区1 長さ1.3m×幅0.8m、地表から0.24mで地山面に至る。遺構、遺物は確認できなかった。

調査区2 長さ1.2m×幅0.8m、地表から0.7mで地山面に至る。搅乱により、遺構、遺物は確認できなかった。

調査区3 長さ0.8m×幅0.5m、地表から0.4mで地山面に至る。遺構はピット1基を確認し、遺物は包含層より、土師器杯（1・2）・皿（3・4）・椀A（5）・高杯脚部（6）・灰釉陶器椀（7・8）など、斎宮編年II-1期～II-3期の土器が出土した。⁽¹⁾

調査区4 長さ1.4m×幅1.0m、地表から0.55mで地山面に至る。遺構、遺物は確認できなかった。

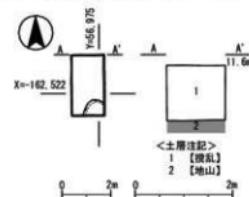
調査区5 長さ1.6m×幅1.4m、地表から0.7mで地山面に至る。遺構は土坑あるいはピットを2基確認したものの、遺物は確認できなかった。

調査区6 長さ1.2m×幅1.0m、地表から1.0mで地山面に至る。遺構、遺物は確認できなかった。

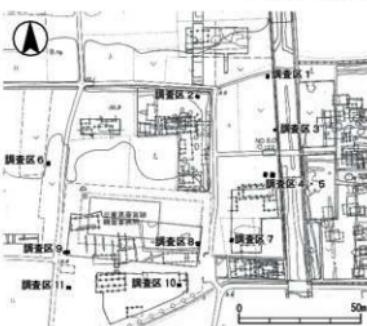
調査区7 長さ1.3m×幅0.9m、地表から1.2mで地山面に至る。遺構はSK11037と土坑あるいはピットを1基確認したものの、遺物は確認できなかった。



第6図 第191-2次調査区位置図 (1:2000)



第7図 第191-2次調査 遺構平面図 (1:200)・
土層図 (1:100)



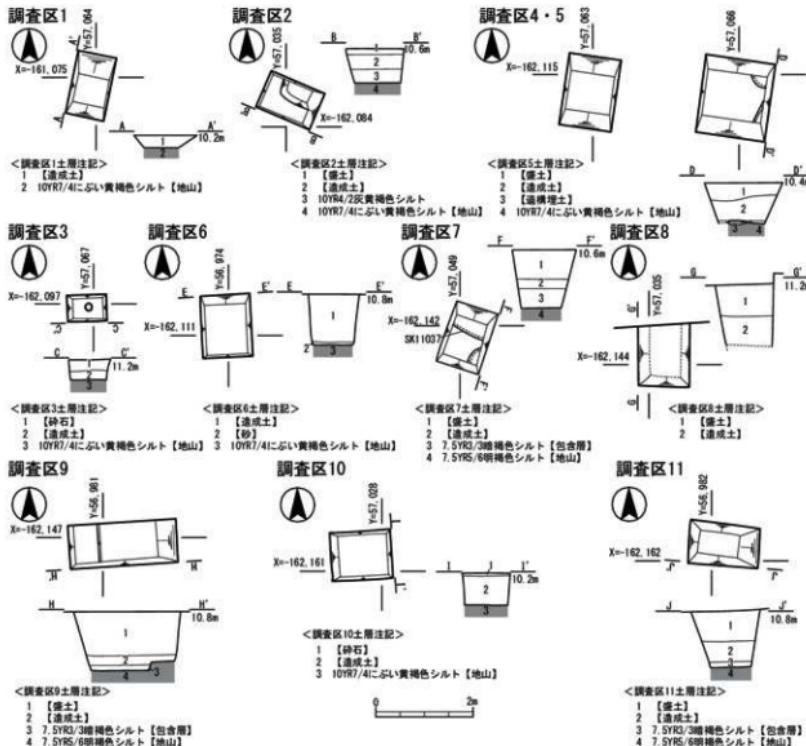
第8図 第191-3次調査区位置図 (1:2000)

調査区8 長さ1.2m×幅1.0m、地表から1.2mを掘削したものの地山面の検出には至っていない。遺物は出土しなかった。

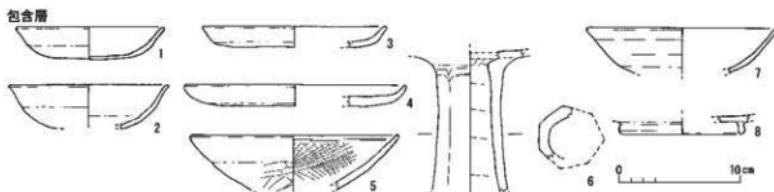
調査区9 長さ2.2m×幅0.9m、地表から1.2mで地山面に至る。遺構、遺物は確認できなかった。

調査区10 長さ1.3m×幅1.0m、地表から0.7mで地山面に至る。遺構、遺物は確認できなかった。

調査区11 長さ1.4m×幅0.8m、地表から1.1mで地山面に至る。遺構は確認できなかったが、土師器片が出土した。



第9図 第191-3次調査 遺構平面図 (1:100)・土層図 (1:100)



第10図 第191-3次調査 遺物実測図 (1:4)

4 第191-4次調査 (6AP13)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字牛葉324番地

原 因 住宅建築

調査期間 平成29年6月12日

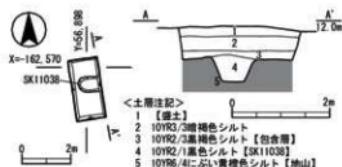
調査面積 3.0m²

調査概要 住宅の新築時の浄化槽埋設に伴い事前に実施した発掘調査で、調査地は史跡南東部に位置する住宅地である。調査区は、平面が長さ2.5m、幅1.2mの長方形で、基本層序は盛土、暗褐色粘質土（耕作土）、黒褐色粘質土（包含層）、にぶい黄橙色粘質土（地山）の順となり、地表から深さ約0.6～0.65mで地山面に至る。遺構検出は地山面直上で行い、土坑あるいは東西主軸の溝と考えられるSK11038を確認した。

SK11038からは、弥生土器の楕形高杯脚部（1）、台付壺台部（2）、壺口縁部（3）・体部（4）が出土し、遺構の時期は弥生時代後期に帰属する。



第11図 第191-4次調査区位置図 (1:2000)



第12図 第191-4次調査 遺構平面図 (1:200)・
土層図 (1:100)

5 第191-5次調査 (6A09)

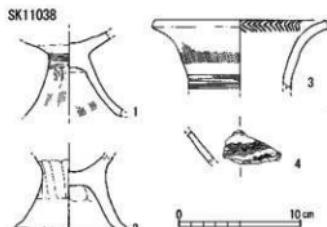
調査場所 多気郡明和町大字斎宮字宮ノ前3116番地ほか
原 因 園路整備

調査期間 平成29年6月26日～7月11日

調査面積 161.2m²

調査概要 明和町の歴まち整備事業の一環で、歴史ロマン広場園路整備事業に伴い事前に実施した発掘調査である。調査地は史跡中央部に位置する。調査区は東西32.0m、南北14.6mの不定形で、地表から地山面までは浅く、0.1～0.2mとなる。遺構検出は地山面直上で行い、溝や土坑、落ち込み、ピットなどを確認した。

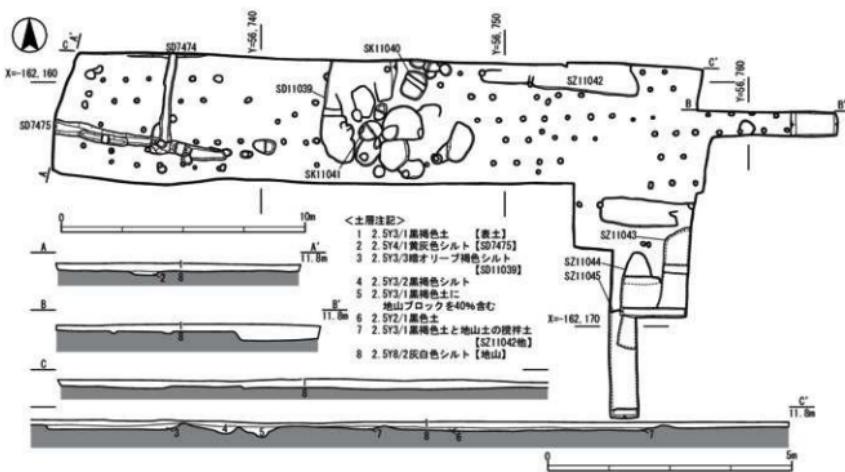
SD7474・7475は第111-3次調査で確認されている時期不明の溝で、SD7474は南北主軸、SD7475は東西主軸となる。SD7475は過去に、道路側溝の可能性が指摘されていたものの、今回の調査では途切れてしまっている。また、両溝からの出土遺物は少なく、帰属時期はわからなかった。SD11039は、調査区中央西よりで確認した南北方向の溝状の遺構で、遺物に近世陶器が含まれており、近世に帰属する可能性が高い。



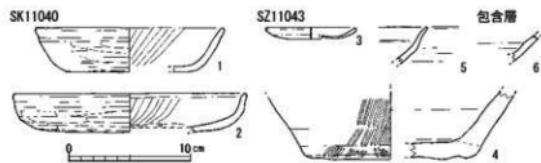
第13図 第191-4次調査 遺物実測図 (1:4)



第14図 第191-5次調査区位置図 (1:2000)



第15図 第191-5次調査 遺構平面図(1:200)・土層図(1:100)



第16図 第191-5次調査 遺物実物図(1:4)

SK11040・11041は調査区中央西よりで確認した小規模土坑で、SK11040からは斎宮I-3期の土師器杯(1)・皿(2)が出土し、奈良時代に帰属する。

SZ11042は調査区東部で確認した落ち込みで、遺構内より近世陶器が出土しており、近世に帰属する。SZ11043・11044・11045は調査区南部で確認した落ち込み群で、斎宮IV-1期の土師器小皿(3)、陶器鉢(4)・皿(5)が出土し、鎌倉時代に帰属する。その他、包含層から白磁皿(6)が出土した。

6 第191-6次調査(6AI12)

調査場所 多気郡明和町大字竹川字東裏346番地ほか
原 因 住宅建築

調査期間 平成29年9月27日

調査面積 2.2m²

調査概要 住宅の新築時の浄化槽埋設に伴い事前に実施した発掘調査で、調査地は史跡南西部に位置する住宅地である。調査区は、平面が長さ2.2m、幅1.2mの長方形で、地表から深さ1.0mで地山面に至る。ただし、調査区内は全面に搅乱を受けているため、地山面はこれよりも浅かったと考えられる。遺構、遺物は確認できなかった。



第17図 第191-6次調査区位置図(1:2000)

7 第191-7次調査 (6AJ12)

調査場所 多気郡明和町大字竹川字東裏267-8番地

原 因 住宅建築

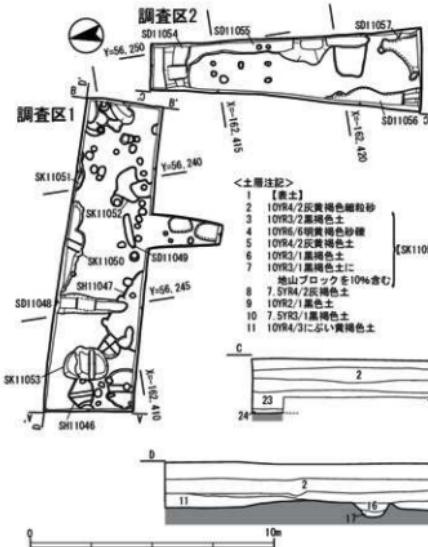
調査期間 平成29年11月1日～11月30日

調査面積 68.3m²

調査概要 住宅の新築に伴い事前に実施した発掘調査で、調査地は史跡南西部に位置する住宅地である。

調査区は、北西側の調査区1と南東側の調査区2の2箇所に分かれており、調査区1は、全長12.8m、最大幅6.4mのT字形で、地表から深さ0.8～0.9mで地山面に至る。調査区2は、全長11.2m、最大幅3.4mの台形で、地表から深さ0.6～0.8mで地山面に至る。遺構検出はどうちらの調査区も地山直上で行い、竪穴建物や溝、土坑、ピットなどを確認した。

調査区1 SH11046は調査区西端で確認した東西3.2m以上、南北2.6m以上の隅丸方形プランと考えられる竪穴建物で、カマドや主柱穴、周壁溝などの明確な遺構は確認できなかったものの、カマドについては、遺構埋土に含まれる焼土の分布傾向から西壁に位置すると推測できる。遺構の南半分は調査区外に続き、検出面から床面までの深さは0.1m程しか



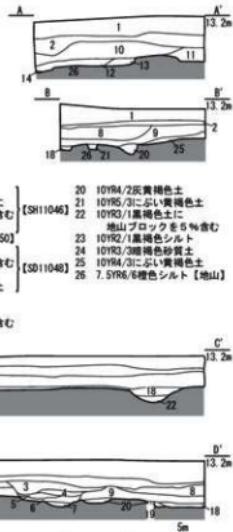
第20図 第191-7次調査 遺構平面図 (1:200)・土層図 (1:100)

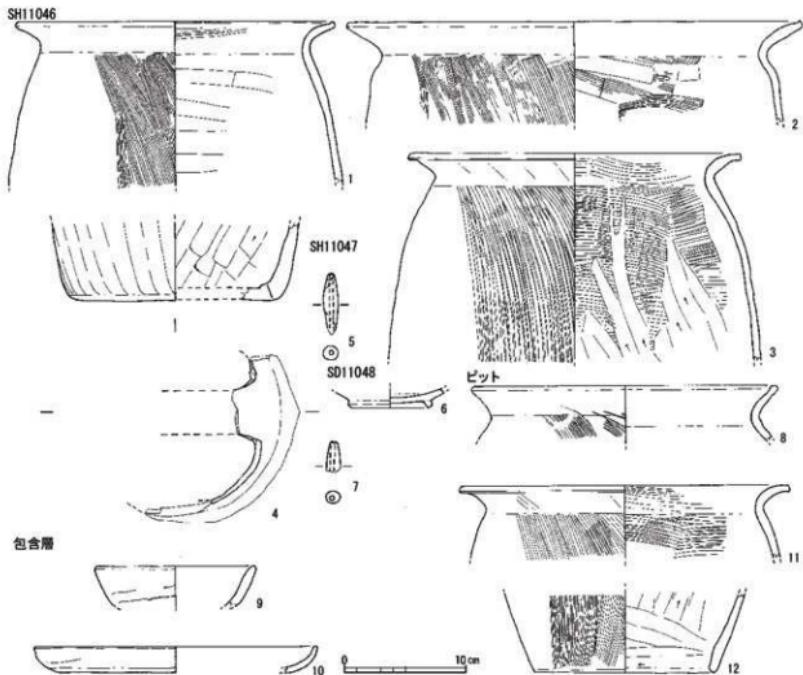


第18図 第191-6次調査 遺構平面図 (1:200)・土層図 (1:100)



第19図 第191-7次調査区位置図 (1:2000)





第21図 第191-7次調査 遺物実測図 (1:4)

なかった。また、SH11046内では複数の土坑が掘り込まれているが、建物埋土との差異はみられないため、建物掘方や床下土坑などの性格の遺構と考えられる。遺物は土師器甕（1～3）・瓶（4）が出土し、奈良時代に帰属する。SH11047は、SH11046の東に重複する東西3.0m以上、南北1.8m以上の隅丸方形プランと考えられる竪穴建物で、カマドや主柱穴、周壁溝などの明確な遺構は確認できなかった。南半分以上は調査区外に続き、検出面から床面まで深さは0.1m程しかなかった。重複状況から、SH11046よりも新しく、主軸も類似することから、奈良時代に帰属すると推測できるが、遺物は土錐（5）のみのため、正確な時期は不明である。SD11048は調査区西側で確認した南北軸の溝で、幅0.8m、長さ2.8m以上となり、北側は調査区外に続く。深さは0.3mで、断面は逆台形を呈す。南端部ではSH11047を掘り込んでおり、重複状況からSH11047よりも新しい。遺物は灰釉陶器碗（6）、土錐（7）が出土し、斎宮II-4期に帰属する。SD11049は調査区中央で確認した東西主軸の溝であるが、遺物は少なく、遺構の時期は不明である。SK11050は調査区中央北端で確認した東西3.8m以上の大型の土坑である。北側の大半は調査区外に続き、深さは0.2m程の逆台形を呈す。平面形、平面規模と合わせると竪穴建物の可能性がある。遺物は土師器小片のみであるが、周囲の状況から奈良時代に帰属すると推測する。SK11051は調査区中央東より北端で確認した土坑で、北側の大半が調査区外に続いたため、遺構の形状や規模はわからない。SK11052は調査区中央東寄りで確認した不整形の土坑で、SK11051・11052ともに遺物は少なく正確な時期は不明であるが、埋土の様相などから古代の遺構と考

えられる。SK11053は調査区西側で確認した不整円形の土坑で、SH11046を掘り込んでいる。遺物は灰釉陶器の小破片がみられ、平安時代後期以降に帰属すると推測できる。その他、ピットから土師器甕(8)、包含層から土師器杯(9)、皿(10)、甕(11)、甑(12)など奈良時代の土師器が出土した。

調査区2 SD11054は調査区北側で確認した東西主軸と考えられる溝で、幅1.0m、長さ1.8m以上となり、東西両側で調査区外に続く。深さは0.3mで、断面はU字形を呈する。重複状況から、SD11055よりも新しい。SD11055は調査区東端で確認した南北主軸の溝で、幅0.4m以上、長さ7.4m以上となり、北側はSD11054と重複する。深さは0.2mで、断面は浅い箱形を呈する。SD11056は調査区南西端で確認した南北主軸の溝で、幅0.6m以上、長さ3.8m以上となり、南北両側で調査区外へ続く。深さは0.45mとなり、断面は逆台形を呈する。SD11057は調査区南東端で確認した東西主軸と考えられる溝状の構造で、幅は0.6m以上、長さ1.8m以上となり、東側と南側は調査区外へと続く。いずれの遺構からもまとまった遺物の出土はみられなかったが、SD11054からは灰釉陶器・山茶碗、SD11055からは灰釉陶器が出土し、これらは平安時代後期以降に帰属する。SD11054・11055は、周囲の過去の発掘調査により確認されている平安時代後期以降の方形をなす区画溝、あるいは土塁などの側溝の性格も想起されるが、SD11054は調査区2のみの確認であり、調査区1の南拡張区では確認できなかった。そのため、調査区間で南に曲がる可能性なども考えられる。

8 第191-8次調査 (6AD10)

調査場所 多気郡明和町大字竹川字萩戸地内

原 因 散策路整備

調査期間 平成29年12月19日～平成30年2月5日

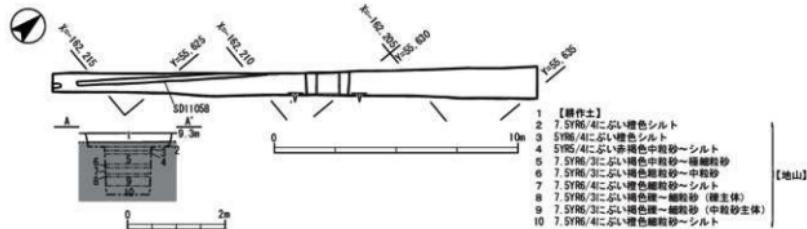
調査面積 19.7m²

調査概要 明和町の歴まち整備事業の一環で、散策路整備に伴い事前に実施した発掘調査である。調査地は史跡西部に位置する水田である。調査区は長さ19.8m、最大幅1.2mで、地表面から地山面までは浅く、0.2mとなる。遺構検出は地山直上で行い、溝を確認した。また沖積地に該当するため、一部を断ち割り調査し、地山下層の状況を確認した。

SD11058は調査区南側で確認した溝で、途中途切れながらも幅0.2m、長さ8.6m以上となり、南北両側で調査区外に続く。遺物は土師器片が出土したもの、遺構の時期は不明である。



第22図 第191-8次調査区位置図 (1:2000)



第23図 第191-8次調査 遺構平面図 (1:200)・土層図 (1:100)

9 第191-9次調査 (6AP7)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字楽殿2889-1番地

原 因 住宅建築

調査期間 平成30年1月10日～1月27日

調査面積 86.0m²

調査概要 住宅の新築に伴い事前に実施した発掘調査で、調査地は史跡北部に位置する畠地である。調査区は、北側の調査区1と南西側の調査区2、南東側の調査区3の3箇所に分かれており、調査区1は、全長11.2m、最大幅3.0mの長方形で、地表面から深さ0.8mで地山面に至る。調査区2は、全長13.4m、最大幅1.2mの長方形で、地表面から深さ0.4～0.7m

mで地山面に至る。調査区3は、全長15.6m、幅4.4mのコ字形で、地表面から深さ0.4～0.7mで地山面に至る。遺構検出は地山直上で行い、溝や土坑、ピットなどを確認した。なお、調査区内で地形の変化がみられ、調査区2・3の南側が最も標高が高く10.5m、調査区1では9.6mとなり、南から北にかけて0.9mの標高差がある谷状地形となる。

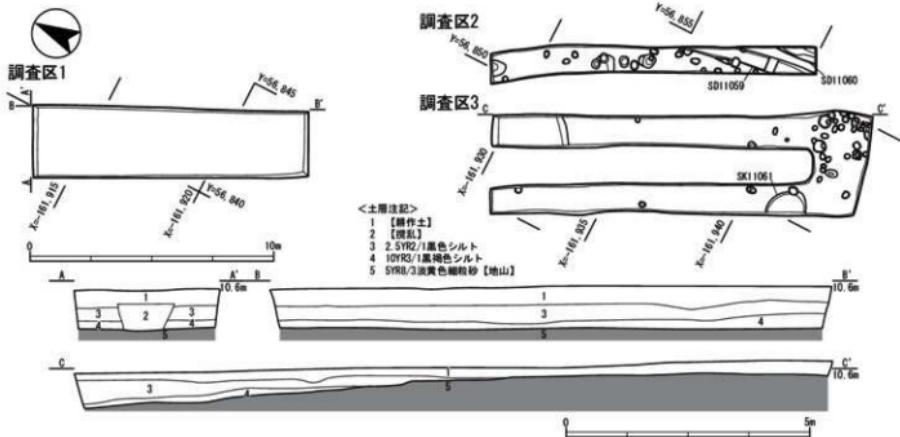
調査区1 調査区の北壁断面では、耕作土中から掘り込まれた搅乱がみられる。また、谷状地形の底に該当するとみられ、遺構や遺物は確認できなかった。

調査区2 南から北にかけて緩やかに傾斜し、標高の低くなる北側では遺構密度は低下する。

SD11059・11060は標高の高い調査区南側で確認した南北主軸の溝で、SD11059は幅0.6m、長さ5.4m以上、SD11060は幅0.6m以上、長さ1.8m以上で、どちらも南北両側が調査区外に続く。遺物はSD11059から土師器皿(1)、須恵器杯B(2)・鉢(3)が出土したものの、埋土の様相や鎌倉時代の遺物を含むことから鎌倉時代に帰属する。またSD11060もSD11059と並行する溝であるため、正確な時期は不明ながら鎌倉時代に帰属すると推測する。その他、ピットを多数確認したが、調査区が狭く、建物と認定できるものはなかった。

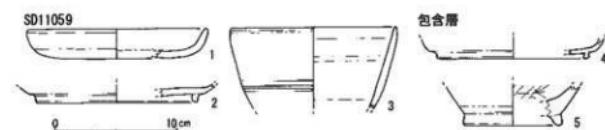


第24図 第191-9次調査区位置図 (1:2000)



第25図 第191-9次調査 遺構平面図 (1:200)・土層図 (1:100)

調査区3 SK11061は
調査区の南西端で確認した土坑で、西側半分は調査区外に続く。遺物はなく、遺構の時期は不明である。その他、南東部に集中して



第26図 第191-9次調査 遺物実測図 (1:4)

ピットを確認したが、こちらも建物と認定できるものはなかった。遺物は、包含層から奈良時代の須恵器杯B(4)、鎌倉時代の陶器の鉢(5)などが出土した。

10 第191-10次調査 (6AH8)

調査場所 多気郡明和町大字竹川字古里地内

原 因 散策路整備

調査期間 平成30年1月29日～3月27日

調査面積 57.1m²

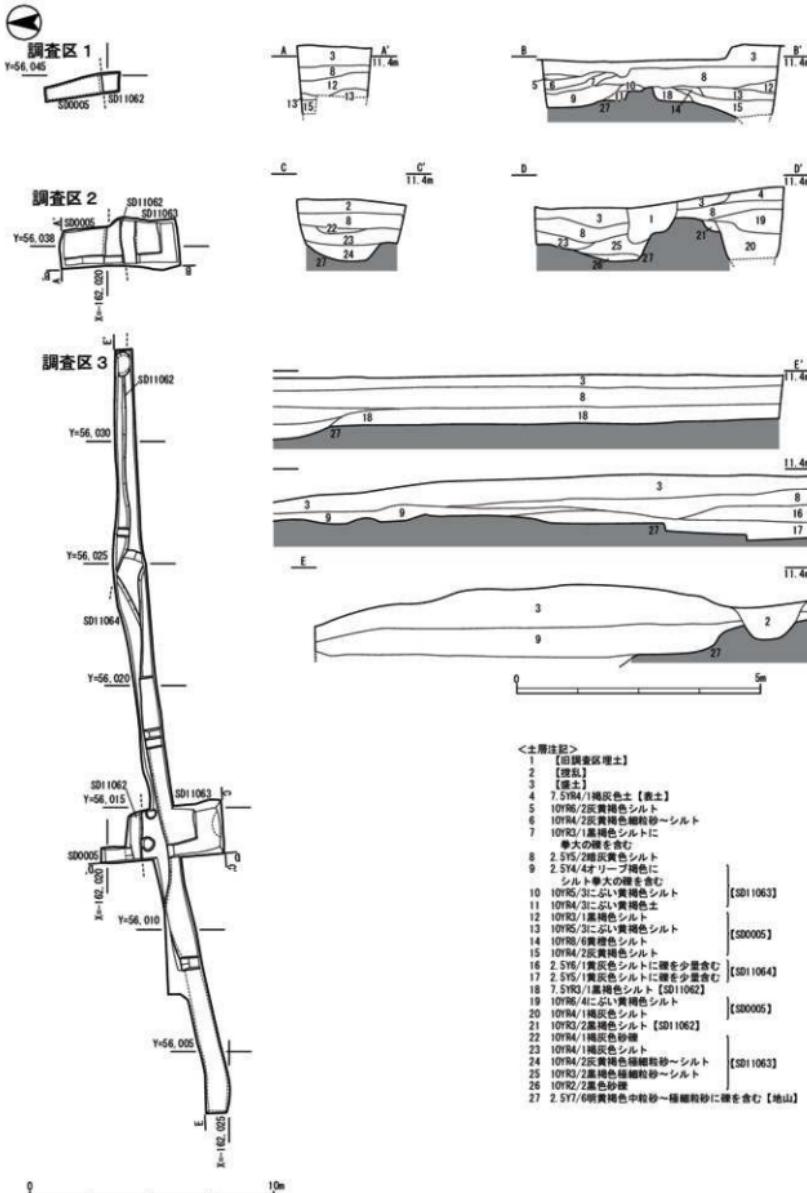
調査概要 明和町の歴まち整備事業の一環で、散策路整備に伴い事前に実施した発掘調査である。調査地は史跡西部に位置する段丘斜面の緩傾斜地で、現状では段丘上面と低地面を繋ぐ現在の道路が切通し状に通る。調査区は、東側の調査区1と中央の調査区2、西側の調査区3の3箇所に分かれており、調査区1は、全長3.0m、最大幅0.8mの長方形で、地表面から深さ1.1mで地山面に至る。調査区2は、全長5.0m、最大幅2.2mの長方形で、地表面から深さ0.55mで地山面に至る。調査区3は、全長31.5m、最大幅1.6mの溝状の調査区に、途中で長さ5.2m、最大幅2.2mを拡張した不整形で、地表面からの深さは東端で0.6m、西端で最大1.5mとなる。遺構検出は地山直上で行い、溝を中心いて、ピットなどを確認した。なお、段丘斜面であり、調査区内で大きく地形の変化がみられ、調査区1の地山面の標高が最も高く11.0m、調査区2では10.5m、さらに調査区3の西端では9.6m以下となり、東端と西端で1.4m以上の標高差がみられた。なお、調査区をまたぐ遺構が多数みられるため、まとめて報告する。

SD0005は、史跡東部から西部に約2km以上伸びるいわゆる「鎌倉大溝」で、調査区1の北半部以上、調査区2の北側、調査区3の拡張区北側で確認した。いずれも大溝の南肩部に該当し、調査区の狭さと調査の安全を考慮して、底面までは完全掘していない。恐らくは、隣接する第97次調査区で確認した際と同様に、遺構面からの深さが3.4m程度になると想われる。遺物は奈良時代の須恵器台付壺(1)、鎌倉時代の山茶碗(2)、土錐(3)などが出土し、鎌倉時代に帰属する。

SD11062は、SD0005の南側に位置する東西主軸の溝で、重複関係から「鎌倉大溝」に先行する。調査区1～3では一部SD0005と重複し、幅0.3～0.8mが残存する。なお、調査区1では、底面を確認した。長さ32.2m以上で、深さ0.3～0.4mの断面皿状を呈し、底面の標高差は調査区1～3ではみられず、段丘端部までほぼ同一の高さで掘削されていたことがわかる。遺物は奈良時代の須恵器平瓶(4)が出土し、奈良時代以降に帰属すると推測する。これは、埋土が黒色系シルトであること、SD0005をはじめ、後述する鎌倉時代の溝群が傾斜地に合わせて深く掘りこまれていることなど、鎌倉時代の溝とは異なる特徴を持つこともそれを裏付けよう。



第27図 第191-10次調査区位置図 (1:2000)

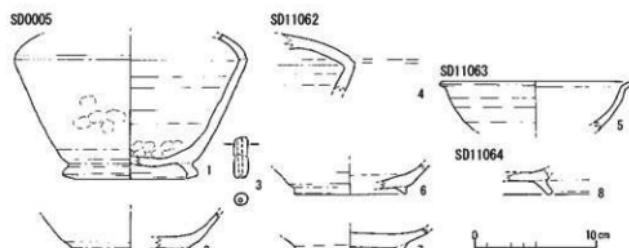


第28図 第191-10次調査 遺構平面図 (1:200)・土層図 (1:100)

SD11063は、調査区2の南側と調査区3の中央南側で確認した東西主軸の溝で、幅2.2m以上、長さ36.6m以上にもなる大規模なものである。調査区2と3では、底面の標高差が約0.6mあり、東から西へ谷状に下る旧地形に

合わせて掘削されている。遺物は山茶椀(5~7)が出土し、鎌倉時代に帰属する。SD11064は、調査区3の中央に位置する東西主軸の溝で、幅0.8m、長さ4.0m以上、重複関係からSD11063に先行する。遺物はロクロ土師器台付皿あるいは椀(8)が出土し、鎌倉時代に帰属する。

以上、古代伊勢道と関連する可能性があるSD11062や、「鎌倉大溝」と並行するSD11063など、段丘端部から低地への土地利用状況を部分的ではあるものの解明することができた。



第29図 第191-10次調査 遺物実測図 (1:4)

11 第191-11次調査 (6AP6)

調査場所 多気郡明和町大字斎宮字楽殿2880-3番地

原 因 盛土

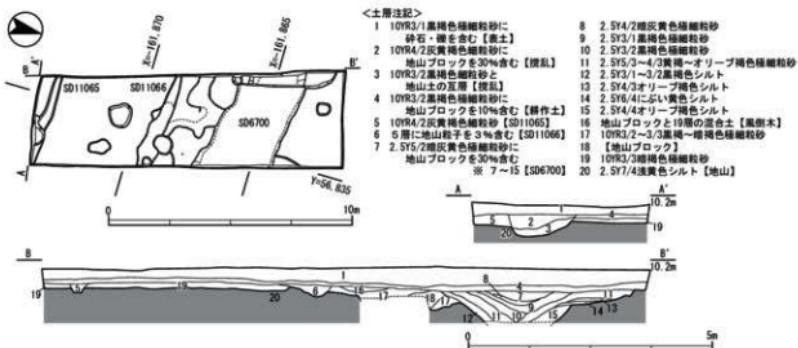
調査期間 平成30年3月15日～3月29日

調査面積 52.0m²

調査概要 住宅建築の盛土に伴い事前に実施した発掘調査で、調査地は史跡北部に位置する畑地である。調査区は、平面が長さ13.0m、幅4.0mの長方形で、地表から深さ0.4mで地山面に至る。遺構検出は地山直上で行い、溝や土坑、ピットなどを確認した。



第30図 第191-11次調査区位置図 (1:2000)



第31図 第191-11次調査 遺構平面図 (1:200)・土層図 (1:100)

SD6700は調査区の北側で確認した「鎌倉大溝」で、調査区東西を横断する幅3.2m、地山面からの深さ0.7m以上となり、隣接する第81-4次調査区においても同様の溝が確認されている。遺物は上層より土器器窓(1)が出土し、周囲の遺構からの混入と考えられる。

その他、SD6700に並行する溝、SD11065・11066を調査区南部と中央部で確認した。SD11065は幅0.4m、長さ3.8m以上、SD11066は幅0.8m、長さ3.9m以上で、どちらも東西両側が調査区外に続く。遺物はどちらも出土しなかったが、SD6700と並行することから鎌倉時代以降と推測する。

12 第191-12次調査 (6AF8)

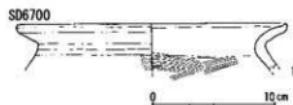
調査場所 多気郡明和町大字竹川字畠戸地内

原 因 散策路整備

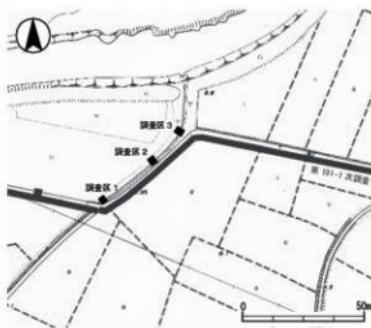
調査期間 平成29年7月3日

調査面積 11.8m²

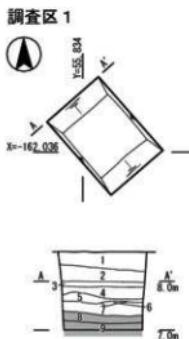
調査概要 明和町の歴まち整備事業の一環で、散策路整備に伴い事前に実施した発掘調査である。調査地は史跡西部に位置する町道（赤道）及び水路であり、第191-1次調査の調査区2に対面する位置となる。表土層より下層は遺物包含層及び砂礫層となるが、遺構面の認識は困難であるため地層の観察と記録を調査の主体とした。調査区は3箇所で、調査区1～3区に分けて以下に報告する。



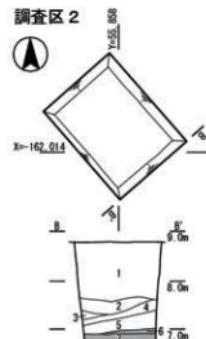
第32図 第191-11次調査 遺物実測図 (1:4)



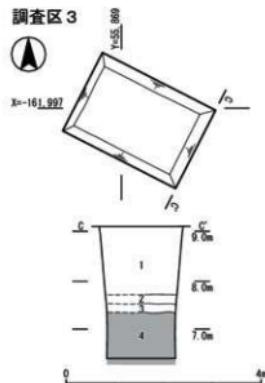
第33図 第191-12次調査区位置図 (1:2000)



- <調査区1 土層記述>
- 1 IOYR-2 にじいろ黄褐色中粒砂～シルト【表土】
 - 2 IOYR-3 にじいろ黄褐色シルト
 - 3 IOYR-2 灰褐色シルト
 - 4 IOYR-3 にじいろ黄褐色シルト
 - 5 IOYR-2 反黄褐色シルト
 - 6 IOYR-6 黄褐色シルト
 - 7 IOYR-2 反黄褐色シルト
 - 8 IOYR-3 にじいろ黄褐色～シルト【砂礫層】
 - 9 IOYR-2 反黄褐色～粗粒砂【砂礫層】



- <調査区2 土層記述>
- 1 IOYR-3 にじいろ黄褐色中粒砂～シルト【表土】
 - 2 7.5YR-3 にじいろ黄褐色シルト
 - 3 10YR-6 明褐色シルト～粘土 【遺物包含層】
 - 4 10YR-4 にじいろ黄褐色シルト
 - 5 7.5YR-6 明褐色シルト
 - 6 7.5YR-3 にじいろ黄褐色細粒砂を含む
 - 7 7.5YR-6 明褐色細粒砂
 - 8 6 7.5YR-6 反黄褐色～粗粒砂【砂礫層】
 - 9 7.5YR-2 反黄褐色～粗粒砂【砂礫層】



- <調査区3 土層記述>
- 1 10YR-3 にじいろ黄褐色中粒砂～シルト【表土】
 - 2 7.5YR-4 にじいろ黄褐色シルト
 - 3 7.5YR-3 にじいろ黄褐色シルト
 - 4 7.5YR-6 明褐色シルトが混じる
 - 5 7.5YR-2 反黄褐色～粗粒砂【砂礫層】

第34図 第191-12次調査 遺構平面図 (1:200)・土層図 (1:100)

調査区1 長さ2.0m×幅1.4m、掘削深度1.6mである。地表から0.8m（標高約7.8m）で遺物包含層、1.2m（標高約7.4m）で砂礫層に達する。出土遺物は土師器甌がある。

調査区2 長さ2.4m×幅1.8m、掘削深度2.1mである。地表から1.1m（標高7.9m）で遺物包含層、1.8m（標高7.2m）で砂礫層に達する。遺物包含層は傾斜堆積を呈しており、第191-1次調査成果を加味すると、盛土造成された地層と推測される。伊勢道に関係する路盤かもしれない。鎌倉時代頃に帰属する。出土遺物は土師器皿、須恵器瓶（1）、灰釉陶器椀（2）などがある。

調査区3 長さ2.6m×幅1.8m、掘削深度2.7mである。地表から1.4m（標高7.7m）で遺物包含層、1.7m（標高7.4m）で砂礫層に達する。出土遺物は灰釉陶器椀、土師器片がある。



第35図 第191-12次調査 遺物実測図 (1:4)

【註】

- (1) 土器編年については右記の報告書を参考にした。『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』斎宮歴史博物館 2001、『斎宮跡発掘調査報告Ⅱ』斎宮歴史博物館 2014。以下同じ。

次数	遺構名	調査時 遺構名	時期	出土遺物	備考
191-1	SN 11036	水田畦畔	中世	なし	
191-3	SK 11037	土坑 1	不明	なし	
191-4	SK 11038	ミゾ	弥生時代後期	弥生土器	
191-5	SD 7474	溝 1	不明	土師器・須恵器	
	SD 7475	溝 2	不明	土師器・土壁	
	SD 11039	溝 5	近世以降	土師器・近世陶器	
	SK 11040	土坑 8	奈良時代後期	土師器	
	SK 11041	土坑 9	不明	土師器	
	SZ 11042	落ち込み 7	近世以降	土師器・山茶椀・近世陶器	
	SZ 11043	落ち込み 13	鎌倉時代	土師器・山茶椀	
	SZ 11044	落ち込み 14	鎌倉時代	土師器・須恵器	
	SZ 11045	落ち込み 15	鎌倉時代	土師器	
191-7	SH 11046	土坑 1・4・6	飛鳥・奈良前期	土師器	
	SH 11047	土坑 3	飛鳥・奈良前期	土師器・土鍤	
	SD 11048	溝 1	平安時代中期	土師器・灰釉陶器・土鍤	
	SD 11049	溝 2	不明	土師器	
	SK 11050	土坑 5	古代	土師器	堅穴建物か？
	SK 11051	土坑 8	古代	土師器	
	SK 11052	土坑 7	古代	土師器	
	SK 11053	土坑 2	平安時代後期	土師器・須恵器	
	SD 11054	溝 3	平安時代後期	土師器・須恵器・灰釉陶器・山茶椀	
	SD 11055	溝 4	平安時代後期	土師器・灰釉陶器	
191-8	SD 11056	溝 5	不明	土師器	
	SD 11057	溝 6	不明	土師器	
191-9	SD 11058	溝 1	中世以降	土師器	
191-9	SD 11059	溝 1	鎌倉時代	土師器・須恵器	
	SD 11060	溝 2	鎌倉時代	土師器	
	SK 11061	土坑 1	不明	なし	
191-10	SD 0005	溝 4・5	鎌倉時代	土師器・山茶椀・鉄滓	鎌倉大溝
	SD 11062	溝 2	奈良時代以降	土師器・須恵器	
	SD 11063	溝 1	鎌倉時代	土師器・山茶椀	
	SD 11064	溝 3	鎌倉時代	土師器・山茶椀	
191-11	SD 6700	鎌倉大溝	鎌倉時代	土師器・須恵器・灰釉陶器	鎌倉大溝
	SD 11065	溝 1	不明	なし	
	SD 11066	溝 2	不明	なし	

第2表 第191次調査 遺構一覧表

第191-1次調査

番号	形種	形態	出土遺構	調査特徴	法面 (cm)	法面 (g)	調査・技法の特徴	施工	被災	色調	再合度	登録番号
1	施錠内筒	直	混合層	混合層	2.0	外面：ロクナダ 内面：ロクナダ		直	東地：H(12.377/1 輪：H(1945	口縫層1/12	001-01	
2	陶器	山葉瓶	混合層	直縁	直縁 高台	8.0 内面	外面：ロクナダ、ロクロタグリ、輪付高台、半切底 内面：ロクナダ	直	東地：H(12.377/1 輪：H(815	底部1/12	001-06	
3	土師器	甕	混合層	直縁	11.0	外面：ヨコナダ 内面	25.4 内面	外面：ヨコナダ、ヨコハケ 内面	直	東地：H(2.5188/4	口縫層1/12	001-02
4	土師器	瓶小口	混合層	落込み口	直縁 高台	7.0 内面	ナダ		直	Q23596/6	底部1/12	001-05
5	土師器	甕	混合層	落込み口	口縁 高台	15.6 内面	ヨコナダ 内面	ヨコナダ	直	東地：H(1.097/3	口縫層1/12	001-04
6	土師器	甕	混合層	落込み口	口縁 高台	7.4 内面	ヨコナダ、タテハケ 内面	ヨコナダ、ヨコハケ	直	東地：H(1.097/3	口縫層1/12	001-03
7	青磁	壺	混合層	に凸・直縁 輪付斜切・シルト層	口縁 高台	9.0 内面	ヨコナダ 色ノホト層		直	東地：H(1.098/21 輪：茶褐色55	口縫層1/12	001-03
8	陶器	甕	混合層	に凸・直縁 輪付斜切・シルト層	直縁 高台	6.0 内面	ヨコタグリ 内面	ヨコナダ、始付高台、半切底	直	H(62.377/1	底部 注釈未定	001-05
9	陶器	山葉瓶	混合層	に凸・直縁 色シルト層	口縁 高台	8.0 内面	ヨコタグリ 内面	ヨコナダ、自然輪付甕	直	H(62.377/1	口縫層1/12, 注釈未定	001-07
10	土師器	杯	混合層	に凸・直縁 輪付斜切・シルト層	口縁 高台	13.4 内面	オサヌ、ナダ、ヨコナダ 内面	ナダ、ヨコナダ	直	Q7.5197/6	口縫層9/12	002-01
11	灰陶内筒	杯	混合層	に凸・直縁 輪付斜切・シルト層	直縁 高台	6.5 内面	ヨコタグリ、ヨコナダ 内面	ヨコナダ	直	東地：H(12.377/1 輪：H(815	底部4/12	001-08
12	陶器	山葉瓶	混合層	に凸・直縁 輪付斜切・シルト層	直縁 高台	7.1 内面	ヨコナダ、貼付高台、半切底 内面	ヨコナダ	直	H(12.377/1	底部7/12	002-02
13	土師器	甕	混合層	に凸・直縁 色シルト層	口縁 高台	14.0 内面	オサヌ、ナダ、ヨコナダ 内面	ナダ、ヨコナダ	直	東地：H(10)95/2	口縫層1/12	002-05
14	陶器	山葉瓶	混合層	混合層	口縁 高台	14.3 内面	ヨコナダ 内面	ヨコナダ	直	H(62.377/1	口縫層1/12	003-04
15	灰陶内筒	甕	混合層	に凸・直縁 色シルト層	直縁 高台	6.6 内面	ヨコナダ、貼付高台、半切底 内面	ヨコナダ	直	東地：H(12.377/2 輪：H(8152	底部4/12	002-01
16	陶器	山葉瓶	混合層	に凸・直縁 色シルト層	直縁 高台	7.0 内面	ヨコナダ、ヨクロタグリ、輪付高台、半切底 内面	ヨコナダ、自然輪付甕	直	H(62.377/1	底部未定	002-04
17	新製品	灯	混合層	混合層	直縁 輪付 押さ	4.3 0.6 0.6	重さ：4.0kg 内面	—	—	—	—	003-01
18	新製品	環状品	耕作土	耕作土	直縁 押さ	5.0 0.4	重さ：21.0g 内面	—	—	—	—	003-02

第191-3次調査

1	土師器	杯	混合層	混合層	口縁 高台	11.8 2.7 内面	外面：オサヌ、ナダ、ヨコナダ 内面：ヨコナダ	直	東地：H(10)95/4	口縫層1/12	001-01	
2	土師器	杯	混合層	混合層	口縁 高台	12.6 3.3 内面	外面：オサヌ、ナダ、ヨコナダ 内面：ナダ、ヨコナダ	直	Q2.5197/6	口縫層1/12	001-05	
3	土師器	甕	混合層	混合層	口縁 高台	14.6 1.7 内面	外面：オサヌ、ナダ、ヨコナダ 内面：ヨコナダ	直	Q23596/6	口縫層1/12	001-07	
4	土師器	甕	混合層	混合層	口縁 高台	14.6 1.5 内面	外面：オサヌ、ナダ、ヨコナダ 内面：ナダ、ヨコナダ	直	Q23596/6	口縫層1/12	002-01	
5	土師器	杯	混合層	混合層	口縁 高台	16.6 4.3 内面	ヘラタグリ、ヨコナダ、7箇の面取り 内面	直	東地：H(2.317/2 輪：木製色964	口縫層1/12	001-06	
6	土師器	高杯	混合層	混合層	脚縁 高台	5.3 3.0 内面	ヨコナダ、ヘラタグリ、ナダ	直	Q7.5197/6	—	001-02	
7	灰陶内筒	杯	混合層	混合層	口縁 高台	15.2 2.7 内面	ヨコナダ 内面	ヨコナダ、一部にハケ。	直	東地：H(10)95/3	口縫層2/12	001-03
8	灰陶内筒	甕小口	混合層	混合層	直縁 高台	9.0 1.5 内面	ヨコナダ 内面	ヨコナダ	直	東地：灰2.317/2 輪：木製色964	底部1/12	001-04

第3表 第191次調査 出土遺物一覧表(1)

第191-4次調査

番号	形種	器形	出土遺物	調査時 遺構名	法面(cm) 底さ(g)	測量・技法の特徴	施工	被覆	色調	保存度	登錄 番号
1	陶生土器	高杯	SK 13028	ミヅ	陶面 6.5	外面：ヨコナダ、ナデ、タテミガキ、縦刷文 内面：ハケ、ヨコナダ、オサエ	施 良	にぶい赤褐色2.3185/4	—	061-02	
2	陶生土器	台付甕	SK 13028	ミヅ	直径 陶面 6.1	外面：ハラケタリ、ヨコナダ、ナデ 内面：ヨコナダ、ヨコナダ、オサエ	施 良	明赤褐色2.3185/6	底部4/12	061-04	
3	陶生土器	口徑直 甕	SK 13028	ミヅ	口徑 陶面 5.7	外面：タテハケ、ヨコナダ、縦刷横刷文 内面：ヨコナダ、柄による別刷削突	施 良	Q27.5187/6	口縁部2/12	061-01	
4	陶生土器	甕	SK 13028	ミヅ	陶面 2.7	外面：ナデ、柄による波状文、横刷文 内面：ナデ	施 良	Q27.5187/6	—	061-03	

第191-5次調査

番号	形種	器形	出土 遺構	調査時 遺構名	法面(cm) 底さ(g)	測量・技法の特徴	施工	被覆	色調	保存度	登錄 番号
1	土師器	杯	SK 13040	土坑6	口徑 陶面 15.1	外面：ハラケタリ、ヨコナダ 内面：ナデ、ヘラミガキ、鉛削鉛削文	施 良	Q27.5186/8	口縁部2/12	061-01	
2	土師器	甕	SK 13040	土坑6	口徑 陶面 18.8	外面：ハラケタリ、ヨコナダ 内面：ヘラミガキ、縦刷横刷文、鉛削鉛削文	施 良	Q27.5186/6	口縁部1/12	061-02	
3	土師器	小瓶	SE 13041	盛り込み12	口徑 陶面 7.2	外面：オサエ、ナデ、ヨコナダ 内面：ナデ、ヨコナダ	施 良	にぶい赤2.3186/4	口縁部4/12	061-04	
4	陶器	杯	SJ 13041	盛り込み12	直徑 陶面 12.7	外面：ハラケタリ、ヨコナダ、オサエ、タタキ 内面：ナデ、ヨコナダ	やや やや 施 良	にぶい赤褐色3.3185/3	底部3/12	061-03	
5	陶器	甕	SJ 13041	盛り込み12	直徑 陶面 2.0	外面：ロクロナダ 内面：ロクロナダ	施 良	黄H2.3186/1	口縁部 1/12 未清	061-05	
6	白磁	甕	結合層	結合層	陶面 2.2	外面：ロクロナダ 内面：ロクロナダ	施 良	赤地：灰H2.3187/1 釉：H2.31945	—	061-06	

第191-7次調査

1	土師器	甕	SH 13046	土坑1	口徑 陶面 16.2	外面：タテハケ、ヨコナダ 内面：ヨコハケ、ヘラタリ、ヨコナダ	施 良	にぶい黄H2.10187/4	口縁部1/12	061-01
2	土師器	甕	SH 13046	土坑1	口徑 陶面 25.6	外面：タテハケ、ヨコナダ 内面：板ナゲ、ヨコナダ	施 良	浅黄褐色10188/3	口縁部2/12	061-01
3	土師器	甕	SH 13046	土坑6	直徑 陶面 36.0	外面：タテハケ、ヨコナダ、ヨコナダ 内面：ヨコハケ、ヨコナダ	施 良	Q27.5187/6	口縁部3/12	061-02
4	土師器	甕	SH 13046	土坑4	直徑 陶面 14.7	外面：板ナゲ、ナデ、オサエ 内面：板ナゲ、ヨコナダ、ナデ	施 良	にぶい黄H2.10186/4	面部3/12	061-01
5	土製品	土器	SH 13047	土坑3	直さ 幅 1.6	5.0 オサエ、ナデ 直さ：3.17cm 孔径：0.3cm	施 良	にぶい黄H2.10186/3	口縁部定形	061-02
6	瓦輪軸器	陶か皿	SD 13048	溝1	直徑 陶面 6.3	外面：ロクロナダ、希少病、高台粘付 内面：ロクロナダ	施 良	赤地：灰H2.3187/2 輪：青白模808	底部6/12	061-04
7	土製品	土器	SD 13048	溝1	直さ 幅 1.2	2.5ナデ 直さ：3.21cm 孔径：0.35cm	施 良	にぶい黄H2.10187/4	1/2腹周	061-03
8	土師器	甕	ビット	A12P2	口徑 陶面 24.6	外面：タテハケ、ヨコナダ 内面：板ナゲ、ヨコナダ	施 良	浅黄褐色10188/2	口縁部1/12	061-05
9	土師器	甕	結合層	結合層	口徑 陶面 12.7	外面：ヨコナダ 内面：ヨコナダ	施 良	Q27.5186/6	口縁部1/12	061-03
10	土師器	甕	結合層	結合層	口徑 陶面 22.0	外面：ヨコナダ、ナデ 内面：ヨコナダ	施 良	Q27.5186/6	口縁部1/12	061-04
11	土師器	甕	結合層	結合層	口徑 陶面 12.7	外面：タテハケ、ヨコナダ 内面：板ナゲ、ヨコケズリ	施 良	Q27.5186/6	口縁部1/12	061-01
12	土師器	甕	結合層	結合層	直徑 陶面 14.4	外面：タテハケ、ヨコケズリ 内面：板ナゲ、ヨコケズリ	施 良	にぶいQ27.5186/4	底部2/12	061-02

第4表 第191次調査 出土遺物一覧表(2)

第191-9次調査

番号	測量	形態	出土 遺物	調査時 遺物名	重量(g) 重さ(g)	説明・技法の特徴	船上	船底	色調	両合度	登録 番号
1	土師器	瓶	SD 11059	ミソ1	口縁 陶器	14.3 内面:オサヌ、ナダ、ヨコナダ 2.4 内面:ナダ、ヨコナダ	無	無	黄BC2.516/6	口縁部1/12	001-01
2	瓦	杯	SD 11059	ミソ1	口縁 陶器	13.5 内面:ロクロケズリ、赤切痕、高台貼付 1.5 内面:ロクロケズリ、ロクロナダ	無	無	黄BC2.516/3	底部3/12	001-03
3	瓦	罐	SD 11059	ミソ1	口縁 陶器	13. 内面:ロクロナダ 6.7 内面:ロクロナダ	無	無	黄BC2.516/1	口縁部1/12	001-02
4	瓦	杯	船合板	船合板	口縁 陶器	12.1 内面:ロクロケズリ、ロクロナダ、赤切痕、高台貼付 1.7 内面:ロクロナダ	無	無	黄BC2.516/2	底部 1/12米側	001-04
5	陶器	罐	船合板	船合板	底盤 陶器	7.8 内面:ロクロケズリ、ロクロナダ、高台貼付 3.2 内面:ロクロナダ	無	無	黄BC2.516/2	底部 1/12米側	001-05

第191-10次調査

1	瓦	台付壺	SD 0005	溝5	底盤 陶器	9.2 内面:ロクロケズリ、ロクロナダ、高台貼付、ナダ 11.3 内面:ロクロナダ、オサエ	無	無	黄BC2.516/1	底部5/12	001-05
2	陶器	山葵瓶	SD 0005	溝4	底盤 陶器	2.9 内面:ロクロケズリ、ロクロナダ、赤切痕、高台貼付 3.4 内面:ロクロナダ	無	無	黄BC2.517/1	底部4/12	001-04
3	土製品	土鉢	SD 0005	溝5	底盤 陶器	3.4 内面:ロクロナダ 1.1 重さ: 2.9kg 乳180.35cm	無	無	にぶい黄BC2.516/4	—	001-06
4	瓦	平底	SD 11062	溝2	陶器	6.5 内面:ロクロナダ 内面:ロクロナダ	無	無	黄BC2.517/1	—	002-02
5	陶器	山葵瓶	SD 11063	溝1	口縁 陶器	15.2 内面:ロクロナダ 4.1 内面:ロクロナダ	無	無	黄BC2.517/2	口縁部3/12	002-01
6	陶器	山葵瓶	SD 11063	溝1	底盤 陶器	8.8 内面:ロクロケズリ、ロクロナダ、赤切痕、高台貼付 2.4 内面:ロクロナダ	無	無	黄BC2.516/2	底部2/12	001-02
7	陶器	山葵瓶	SD 11064	溝1	底盤 陶器	8.3 内面:ロクロケズリ、ロクロナダ、赤切痕、高台貼付 2.0 内面:ロクロナダ	無	無	黄BC2.517/2	底部定査	001-01
8	ロクロ 土師器	台付壺	SD 11064	溝3	陶器	2.6 内面:ロクロナダ、赤切痕、高台貼付 内面:ロクロナダ	無	無	にぶい黄BC2.516/4	口縁部 1/12米側	001-03

第190-11次調査

1	土師器	甕	SD 0700	調査大漁 上網	口縁 陶器	21.2 内面:タテハケ、ヨコナダ 3.9 内面:ヨコハケ、ヨコナダ	無	無	にぶい黄BC2.516/4	口縁部1/12	001-01
---	-----	---	------------	------------	----------	---------------------------------------------	---	---	---------------	---------	--------

第190-12次調査

1	瓦	瓶	船合板	2~4層	陶器	3.1 内面:ロクロナダ 内面:ロクロナダ	無	無	黄BC2.517/1	—	001-01
2	瓦	瓶	船合板	2層	口縁 陶器	14.7 内面:ロクロナダ 2.3 内面:ロクロナダ	無	無	黄BC2.517/3	口縁部1/12	001-02

第5表 第191次調査 出土遺物一覧表(3)

付編 史跡現状変更等許可申請

平成29年度に提出された史跡現状変更等許可申請は、37件である。発掘調査を行ったのは、前年度以前の申請分も含め14件で、内訳は、史跡の実態解明のための計画発掘調査が2件、個人や公共事業の現状変更に伴うものが12件（うち前年以前の申請分5件）である。

37件の申請の内、発掘調査を行わなかった30件は、小規模または工事が簡易で地下遺構に影響を及ぼさないものや、すでに発掘調査が行われている箇所での申請であった。なお、基礎掘削工事等にあたっては斎宮歴史博物館調査研究課並びに明和町斎宮跡・文化観光課職員の立会いのもとで実施している。

29年度の申請の内容は、一覧表（第6表）のとおりである。これらの申請は、（A）個人等から申請されるもの、（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴うもの、（C）史跡環境整備および維持管理等に伴うもの、（D）発掘調査のための申請に分けることができる。

（A）個人等による申請

個人等による申請は、住宅等建築、解体に伴うもので12件あった。うち住宅新築、浄化槽設置など発掘調査が必要とされた6件（第191-2、4、6、7、9、11次調査）について調査を行った。

他の6件については、住宅撤去や工作物の設置等で土地利用区分の第三、四種保存地区にあたり、すでに発掘調査が行われている場合や、工事立会い等の条件付許可により、史跡に影響を及ぼすことなく施工している。

（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴う申請

この申請は9件の提出があった。内容は、電気・電話関係や、排水路・道路の改修であり、工事立会いで着工している。

（C）史跡環境整備および維持管理等に伴う申請

この申請は14件あり、明和町歴史的風致維持向上計画に基づく史跡内環境整備に伴うものが12件、その他の申請が2件であった。その中で、発掘調査が必要な申請は2件あり、園路整備（第191-5次調査）、散策路整備（第191-8、12次調査）について実施した。

（D）発掘調査のための申請

この申請は2件の提出があった。これは三重県が主体となって斎宮歴史博物館が実施している計画発掘調査（第190次調査、第192次調査）で、計272.6m²が調査された。第192次調査については斎宮歴史博物館から別途調査概報が刊行されており、第190次調査については次年度刊行を予定している。

申 請 地	種別	申 請 者	変 更 内 容	申 請 日	許 可 日	変 更 面 積	区 分	備 考
1 竹川字中垣内453-9	A 個人	フェンス建設	H29.4.1	H29.4.19	L=23m	4		
2 竹川字吉尾517-1	C 明和町 (斎宮跡・文化観光課)	案内看板設置	H29.4.4	H29.4.14	1基	3		
3 斎宮字牛糞地内	B 中部電力㈱松阪営業所	電柱新設	H29.4.6	H29.4.14	1本	3		
4 斎宮字御辻地内	C 明和町 (斎宮跡・文化観光課)	排水路改修	H29.4.10	H29.4.14	L=150m	1		
5 斎宮字牛糞3005-1	A 個人	住宅基礎撤去	H29.4.10	H29.4.14	1棟	3		
6 斎宮字御辻2-2, 外2筆	C 明和町 (斎宮跡・文化観光課)	仮設木製橋撤去	H29.4.20	H29.5.1	1本	1		
7 斎宮字御辻地内	B 中部電力㈱松阪営業所	支障新設	H29.5.2	H29.5.15	1条	3		
8 斎宮字御辻地内, 斎宮字宮ノ前3116 外8筆	C 明和町 (斎宮跡・文化観光課)	園路整備	H29.5.11	H29.6.16	L=230m	1	第191~5次調査	
9 竹川字花園, 斎宮戸内地	C 明和町 (斎宮跡・文化観光課)	敷石路整備	H29.5.11	H29.6.16	L=117m	3	第191~8, 12次調査	
10 竹川字東裏300-1 外3筆	A 竹川自治会墓地組合	共同墓地整理	H29.5.24	H29.6.5	L=77m	3		
11 斎宮字御辻2938-1 外2筆	C 明和町 (斎宮跡・文化観光課)	アスファルト舗装	H29.5.24	H29.6.5	L=130m	1		
12 竹川字中垣内493-7	D 三重県知事 鈴木英敬	免震調査	H29.6.2	H29.7.21	106.6m ²	2	第190次調査	
13 竹川字東裏346, 347-1	A 個人	住宅建替	H29.7.7	H29.8.28	119.24m ²	4	第191~6次調査	
14 斎宮字下園2926-8, -10	A 個人	建物解体	H29.7.11	H29.7.20	2棟	4		
15 斎宮字雄林3149-4 外2筆	A 個人	カーボート新設	H29.7.28	H29.8.10	2棟	4		
16 斎宮字西加茂2666-7 外2筆	C 明和町 (斎宮跡・文化観光課)	喫煙所等設置	H29.7.31	H29.8.10	4基	1		
17 斎宮字東殿2918-4	B 中部電力㈱松阪営業所	支障新設	H29.8.2	H29.8.10	1条	1		
18 竹川字東裏278-8	A 個人	住宅建築	H29.9.1	H29.10.20	122.14m ²	3	第191~7次調査	
19 斎宮字雄林3147-2	A 個人	建物解体	H29.9.26	H29.10.3	2棟	4		
20 斎宮字西前津2827-1	B 中部電力㈱松阪営業所	電柱新設	H29.10.3	H29.10.19	1本	3		
21 竹川字中垣内474-1, 422-1	D 三重県知事 鈴木英敬	免震調査	H29.10.4	H29.11.17	166.6m ²	2	第192次調査	
22 斎宮字御辻2953-1 外9筆	C 明和町 (斎宮跡・文化観光課)	照明機器設置	H29.10.20	H29.11.7	L=193m, 8基	1		
23 斎宮字東殿2889-1	A 個人	住宅建替	H29.11.6	H29.12.8	85.76m ²	3	第191~9次、 第194~1次調査	
24 斎宮字東殿、雄林、西前津、東前沖、御辻、牛糞、西加茂、東加茂、殿山地内	C 明和町 (斎宮跡・文化観光課)	道路舗装	H29.11.20	H29.12.7	L=1332.1m	1~2~3		
25 斎宮字雄林、木薙山地内	B (まち整備課)	排水路改修及び道路舗装	H29.11.28	H29.12.7	L=368.9m	3		
26 斎宮字池内4441, 4433	B 中部電力㈱松阪営業所	電柱・支柱撤去	H29.12.7	H29.12.15	4本, 1条	3		
27 竹川大字東裏278-8	B 中部電力㈱松阪営業所	電柱・支柱新設	H29.12.20	H30.1.5	2本	4		
28 竹川字中垣内483 外3筆	C 明和町 (斎宮跡・文化観光課)	案内看板設置	H29.12.6	H30.1.16	4基	2		
29 斎宮字雄林2779 外9筆	C 斎宮跡活用実行委員会	案内看板設置	H29.12.20	H30.2.6	10基	1~2		
30 斎宮字西前津29264-49	C 明和町 (斎宮跡・文化観光課)	道路案内標識設置	H30.1.9	H30.1.19	2基	1~4		
31 竹川字絆戸地内 (県道伊勢小俣松阪線、町有地内)	C 明和町 (斎宮跡・文化観光課)	案内看板設置	H30.1.25	H30.2.13	1基	3		
32 斎宮字東殿2980-3	A 関宇田工務店	擁壁及び給排水管設置	H30.1.25	H30.2.13	L=67.4m	3		
33 竹川字東裏334-5 外3筆	B 近畿日本鉄道㈱	鉄柱補修	H30.1.26	H30.3.9	2基, 18条	3		
34 斎宮字東殿2880-3	A 関宇田工務店	塗土	H30.1.30	H30.3.9	458m ²	3	第191~11次調査	
35 斎宮字御辻2972-4 外19筆	C 明和町 (まち整備課)	植栽	H30.2.9	H30.4.20	L=230m	1		
36 斎宮字頭名堤外内地	B 明和町 (まち整備課)	道路舗装	H30.2.22	H30.3.16	L=120m	3		
37 斎宮字雄林3178-2	A 個人	建物解体	H30.2.27	H30.3.2	3棟	4		

第6表 平成29年度現状変更等許可申請一覧

写 真 図 版



写真図版1 第191-1次調査区1 全景（南西から）



写真図版2 第191-1次調査区1【拡張区】
SN11036検出状況（南東から）



写真図版3 第191-1次調査区2 全景（南から）



写真図版4 第191-1次調査区3 全景（東から）



写真図版5 第191-1次調査区3 全景（西から）



写真図版6 第191-1次調査区4 全景（東から）



写真図版7 第191-2次調査区全景（北から）



写真図版8 第191-3次調査区2 全景（北から）



写真図版9 第191-3次調査区3全景（東から）



写真図版10 第191-3次調査区7全景（南から）



写真図版11 第191-4次調査区全景（西から）



写真図版12 第191-6次調査区全景（北から）



写真図版13 第191-5次調査区全景（西から）



写真図版14 第191-5次調査区東（南から）



写真図版15 第191-7次調査区1 全景（東から）



写真図版16 第191-7次調査区2全景（北から）



写真図版17 第191-8次調査区全景（北東から）



写真図版18 第191-8次調査断ち割り土層（北西から）



写真図版19 第191-9次調査区2全景（南から）



写真図版20 第191-9次調査区2・3全景（北から）



写真図版21 第191-10次調査区全景（東から）



写真図版22 第191-10次調査区2全景（南東から）



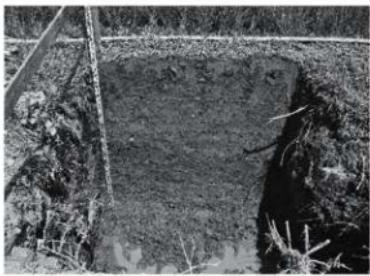
写真図版23 第191-10次調査区3拡張部（北東から）



写真図版24 第191-11次調査区全景（北から）



写真図版25 第191-11次調査SD6700断面（北から）



写真図版26 第191-12次調査区1土層（南東から）



写真図版27 第191-12次調査区2土層（北から）



写真図版28 第191-12次調査区3土層（北西から）

報 告 書 抄 錄

史跡 斎宮跡
平成29年度
現状変更緊急発掘調査報告

平成31(2019)年3月20日

編 集 斎宮歴史博物館
発 行 明和町
印 刷 光出版印刷株式会社
